

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価				
よく考え、工夫する子ども 人やものにやさしい子ども 進んで取り組み、やりぬく子ども	笑顔あふれる 中塩田の子 ～一人になれる 一つになれる～			学校生活を楽しく感じ、授業でわかったと実感している様子が子どものアンケートから読み取ることができる。また、運動会の各学年の種目など見合う時間をとり、全校でのつながりを作ることでもできた。一方、一人一人がよく聴いて、自分の思いを表現する姿に課題を感じ、さらなる成長を願う教師の姿がある。後期は、UD化やICTを用いた授業改善とあわせて、より聴き表現する授業や授業の振り返りを大切にしていきたい。個々の子どもの様子をとりえをを広げ、子どもが、よく安心して自己表現し学べる環境を整えていきたい。				
	今年度の重点目標			成果と課題				
	①	よく聴いて、自分の思いを表現できる子 (話す・書く)	子どもたちが、よく聴いて思いを表現できるように、より分かりやすい学習指導を工夫支援してきた。まだ自分の思いを表現することが難しい子どもも多い。また相手意識をもって表現する、聴くことが課題である。	A	B	C	D	改善策・向上策 自信をもって発表できるように話型を提示するなど、スモールステップで表現する学習形態を工夫する。また、個々の良い姿を認める声かけを大切にいく。
	②	自分から挨拶し、相手を大切にする子 (温かい言葉・思いやり)	挨拶や思いやりを大切にすることは、多くの子どもがもち、自ら実践していると感じている。相手を意識した挨拶をする姿や温かい言葉かけがさらに増えるとよい。			○		自ら挨拶することの気持ちよさを感じられるような声かけや、日常の接し方を示すとともに、よい姿を認め上げていく。
③	友と協力し合い、作業や活動に根気よく取り組む子 (黙々活動)	どんな作業にも真剣に集中できる子どもたちが多く、課題を明確にすることで、取り組む姿勢も大きく違ってきた。児童会や係の活動などで子どもたちが工夫して取り組む姿勢も増えている。			○		友達と一緒に協力して活動できる機会を増やし、達成感を共有できる時間を設けていく。	

領域対象	評価の観点	評価方法	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策		
重点目標	①	A わかりやすい板書	「学習問題」まどめ」を板書計画に位置付け、一時間の授業の流れが分かる板書を心がけている。	アイウエオ	毎時間、同じように板書することによって、子どもたちは次に何をやるのかがわかり見通しをもつことができた。視覚支援が有効な子どもたちが多くいる学級では、全体指導と板書で流れが意識できるようにしている。子どもたちは、おおむねわかりやすいと感じている。さらに板書の改善を心がけていく。			○		1時間の流れが確認できる板書にするためにねらいとめあてが一致した授業を心がける。子ども達が「今日考えること」「今日学んだこと」を明確にわかるように工夫していく。
		B 振り返りの時間の確保	1時間で学べた内容や学び方を振り返る時間を確保し、子どもの考えの変容や定着状況を確認している。	アイウエオ	子どもたちの中には、授業の振り返りをする意識は、定着してきている。終了に振り返りの時間を設けているが時間が足りず、出来ていないことが多い。				○	振り返りの時間の確保を意識した授業づくりを、さらに継続していききたい。45分の学習内容が収まるようにゆとりをもって計画していく。
		C 家庭学習の充実	家庭学習の手引きをもとに、家庭と連携した家庭学習の充実にも努めている。	アイウエ	家庭学習を一生懸命取り組む子どもが多かった。高学年は、自主学習の内容が以前より充実したものになってきている。しかし、まだ家庭学習自体が定着していない子どももいる。子どもの取り組み意識と保護者の求める取り組みに差異がある。				○	まずは宿題を丁寧にやることを第一とする。量や難易度を調整して少しでも取り組めるようにしていく。また家庭学習の手引きを、学級PTAなどで話題に取り上げ、家庭や子どもたちの理解を深めていく。
	②	D 楽しくけじめある学校生活	「挨拶・返事・場に応じた姿勢」を大切に、児童会と連携して安全、安心、快適な学校生活に向けて取り組んでいる。	アイウエオ	授業中に良い姿勢を保ち、学習に取り組む姿が身につけている子どももいる。声掛けして姿勢や返事を意識する子どもが多い。運動会での姿勢や授業の始まりと終わりのあいさつは、姿勢を意識するように指導してきた。普段から意識付けをしていくことが必要である。				○	姿勢は意識しなければ直らない。学級で、なぜ良い姿勢がいいのか、どんな挨拶が気持ちいいのかを、子どもが納得できるよう指導していく。
		E 異年齢の友だちとの活動	なかよしタイム、なかよし読書などの異年齢活動を通して、子ども同士が温かい言葉をかけ合い、相手を思いやる意識が高まった。	アイウ	異年齢の子どもと積極的に関わろうとする高学年の姿があり、ほほえましい。さらに高学年として積極的に関わってほしい場面もある。子どもの多くは、評価が高く、少ない交流の時間を楽しんでいる。コロナ禍なので思うように進まないのが現状である。				○	低学年高学年、それぞれに、貴重な経験になる。工夫をして大切な時間にしていききたい。感染対策をとりながら、機会を増やしていきたい。情報端末などを使い工夫して行いたい。
		F 交流活動の充実	地域の方々や園児・福祉施設の方々との交流活動に子どもが楽しんで関わり合えるよう取り組んだ。	アイウオ	感染対策を講じながら取り組む場面を考えてきたが、実施できない状況である。				///	今後、コロナ禍でもできる交流活動を模索していく。
	③	G よく考え行動する子どもの育成	よく話を聴き、深く考え、自ら気づいて行動する気持ちを高めた。	アイウ	成長段階に応じて自ら行動できる場面は増えている。しかし、話し手の意図を聞き取る力・多様な方法を考える行動する力の育成が課題である。				○	子どもたちが興味をもって取り組める授業を実践することで「深く考える」良さを実感できるようにしていく。
		H 体力向上の継続的な活動	マラソンや縄跳びを取り上げ、進んで継続的に体力向上に向けた活動ができるよう指導を工夫できた。	アイウ	マラソン月間では、積極的に取り組んでいる子どももいた。体育の際に、マラソンしたり縄跳びをしたりする子どもはいても、自ら進んで継続して行う点では、課題が残る。				○	子どもたちに声をかけるだけではなく、教師も一緒にという機会を作っていくことが大切だと感じる。引き続き、体育の授業の中で体力をつける時間を位置づけたい。縄跳びにも進んで取り組める内容を計画していきたい。
		I 仕事に対する意識の醸成	清掃活動や当番活動・係活動、花壇での花作り等を通して、役割を担うことの大切さや仕事に対する意識を醸成した。	アイウエ	黙って掃除に取り組んだり、委員会の当番活動や学級の係活動を一生懸命に行ったりする姿勢が育っている子どもが多い。しかし、学年が上がるにつれて慣れが生まれ、根気よく取り組むことに課題が残る。				○	今後一人一人の役割をはっきりさせておく。さらに細かく、具体的な指示を追加することで、やることを明確化する。出来たことを褒めて、達成感や自己有用感をもたせていくことで、意識を高めていく。
学校運営	J 学校支援ボランティアとの連携	学校支援ボランティアとの連携を通して、読書・学習・体験活動・交通安全に対する意識を高めた。	アイオ	感染レベルにもよるが、地域の方に支援していただくことはとてもありがたい。チャレンジタイムに入っていたが、子どもたちも励みになっていた。アフターコロナでは、さらに連携できるように準備が必要である。				○	感染対策を講じながら、ボランティアの方々のお力を借りし、連携して支援ができるように、準備していく。	
	K 授業のユニバーサルデザイン化	一人一人の子どもにもわかりやすい授業となるように、学習環境を整えることができた。	アイウオ	デジタル教科書、イラスト、具体物、難易度を選べるプリント等を用意し、視覚的に分かりやすい授業を行ったり、塩田地区のUD化の実践から学び、授業にも取り入れられたりできた。				○	今後も視覚支援を中心として継続する。1時間の流れや課題を明確に示すアイテムを考え、準備する。自宅でリモート授業を受ける子どもへの配慮もしていきたい。	
	L 職員研修の充実	子どもから学び、子どものための授業にするために、教職員が互いの実践に学び合いながら研修し、授業に生かすことができた。	アイ	職員が職員研修や重点研究を通し、普段の授業にいきることを互いに学び合うことができた。ICT支援員に学ぶことも多く、助かっている。各種研修会で学んだことを広められる時間が必要である。				○	普段の授業でも、気軽に互いの授業を参観したり、指導の悩みを相談したりできる雰囲気づくりを続けていく。ICT等を活用して、職員間の情報共有をしていく。	
	M いじめへの対処	いじめを防止し、いじめが起きた際、適切に対処することができている。	アイウエオ	素早く対応して子どもから聞き取りを行い、情報共有をしながら解決に向けて取り組んだ。日々の生活の中で、より丁寧に子どもの様子を観察していく。				○	困ったときの解決方法・トラブルを防げるような人間関係の育成を日々の生活の中で培っていく。より相談しやすい雰囲気を作っていくように努力する。	

評価方法 ア・・・教師自身による評価 イ・・・学校長による評価 ウ・・・子どもによる評価(アンケート) エ・・・保護者による評価(アンケート) オ・・・学校関係者・学校評議員による評価(アンケート)